まである聴講者の姿が目立った。特に、最初の自動車部品における連続5件の発表では、関心度合いの高さが伺えた。このセッションでの発表件数は11件あり、それぞれの発表は、反り予測および強度予測に関する内容が6件、最適化手法が2件、さらに、温度モニタリングシステム、流動解析およびウェルドライン生成の3次元シミュレーションに関する内容であった。まず、非常に多くの聴講者があった反り予測に関しては、薄肉大型射出成形部品に着目し、現状の反り解析における問題点を挙げ、実用可能な高精度な反り予測CAEを検討するものであり、充実した内容であった。特に反り予測が困難であるコーナ部に着目した検討を行っており、六角形を基本とした形状を有する独自のサンプルを成形し、種々の実験パラメータを検証していた。そこで、コーナ部における反りは、従来からの温度差による影響だけでないことを示し、その原因を定量的に解明するものであった。強度予測に関しては、塑性変形にお

* Goto, Akihiko
大阪産業大学 工学部 情報システム工学科
大東市中垣内 3-1-1 (〒574-8530)

ポスターセッション

ベストポスター賞報告

田 上 秀 一*

年次大会恒例のポスターセッションは、初日午後のお昼休み直後に行われた。発表件数61件を二つのグループに分け、2時間のセッション枠の中で、それぞれの発表時間を90分とした。そのため、途中の1時間は全てのポスターに登壇者がたつ状況が生まれた。それが原因かどうかかわからないが、広い会場が「会場が狭い」と苦情が出るくらいに参加者で埋め尽くされ、まさに「熱気にあふれる」という言葉がぴったり当てはまる状況の中、各所で発表者と参加者として活発な議論が展開されていた。

ポスターセッションで昨年と大きく異なる点は、全ポスター発表者をベストポスター賞の対象としたことである。ベストポスター賞の審査は、昨年より導入した参加者の投票による審査に加え、審査員による審査も行った。また、実行委員や運営支援委員の協力により、会場の至るところで直接投票用紙を手渡すという作戦をとった。これが功を奏したのか、投票数は昨年の倍以上となった。結果、以下の4件がベストポスター賞に選ばれた。

「環境対応した無塗装白色バンパーにおける耐汚れ性の付与」

塚原義暁氏 (株)プライムポリマー)

* Tanoue, Shuichi
福井大学大学院工学研究科材料開発工学専攻
福井市文京 3-9-1 (〒910-8507)

けるソフトニングに着目し、非線形弾塑性解析における強度予測を行なうものであった。最適化手法においては、生命進化の過程を数理モデル化した遺伝的アルゴリズムと他の手法とを組み合わせることにより、最適な成形条件を見出すものであり、興味深いものであった。1つは多目的遺伝的アルゴリズムと品質工学手法を組み合わせたものであり、もう1つは、ひとの神経モデルを数理モデル化したニューラルネットワークと遺伝的アルゴリズムを組み合わせたものであった。今回は、これらの手法を用いて、成形サイクルの短縮およびバラツキの最小化とランナーバランスの最適化を目的としてシステムの妥当性を検討するものであった。温度モニタリングでは成形プロセスに着目し、樹脂材料の温度だけでなく熱物性推定を試みるものであった。さらに、流動解析では、リブ付き成形品を対象とし、樹脂流動を可視化観察することにより、解析との比較検討を行っていた。ウェルドラインの3次元シミュレーションでは、二次的に発生するウェルドラインの位置を推測するものであり、複雑形状での位置予測が今後期待される。

「マイクロセルラープラスチックの新規パターン発泡技術と液晶バックライト部材への応用」

小島淳也氏 (王子製紙(株))

「射出成形における糸曳き不良現象の評価と粘弾性設計」

平野幸喜氏 (株)プライムポリマー)

「射出成形過程の樹脂流動挙動可視化観察と流動解析との比較検討」

松原永治氏 (金沢工業大学)

表彰は懇親会の席で行われ、小山実行委員長より各受賞者へ記念盾が贈られた。筆者はここ2年ほどポスターセッション担当を仰せつかっているが、いつも悩むのが発表件数である。今年も結果的に多くのエントリーがあったが、その中には担当委員からお願いして発表して頂いたものも多数あるのが現状である。最近至る所で学会が開催され、講演件数確保のプッシュが日常茶飯事であるが、賞取りのセッションで講演件数確保のプッシュが必要なのか少々疑問が残る。今回は、担当側が悲鳴を上げるくらい多くの方に発表していただきたい。ここまで根気よくこの記事を読んで頂いたみなさん、次にベストポスター賞をもらうのはあなたかもしれません。チャレンジしてみませんか？

最後に、本セッションを行うにあたりご協力頂きました多くの方々に紙面を借りまして感謝申し上げます。